

慶応三年六月二十八日より慶応三年七月二日まで

P8310695 right

廿八日戌 陰夕雨意 暖度七十四度(撰氏廿三度)

(箱根沼津)第五時過、小田原出立、十二時過箱根午休、六時過沼津着、唯今先触着せし斗り也とて混

雑あり、本陣より菓子毎に折を出す、謝するに□銀を以てす、休泊割替の義にて佐次方へ才輔を遣す、右に付、清七来り□休泊割替る、領主人馬方同心出役間に合、両の段申断へ来る

廿九日亥 陰朝晴

第四時沼津出立、岩渕本陣小休先般贈硯の謝、猶本日贈硯(才輔へも一面贈りし旨)謝とを合て謝銀遣す

(蒲原江尻)十二時過蒲原午休、五時過江尻着、鰻を試しに存分に佳なり、昨函嶺を越し賀銀一同へ

遣す(才一斤、中小姓一朱中間)

P8310695 left

七月

朔日子 陰夕前雨意終日冷如秋末 暖度八十四度(撰氏廿九度)

(岡部金谷)第四時過蒲原出立、原(弥十)早追にて来る逢う、十時半前岡部午休、四時前金谷着

二日丑 雨意漸薄陰 冷涼如昨 暖度八十二度(撰氏廿八度)

(見附浜松)第四時金谷出立、掛川宿にては先払足輕老人出る、断り□ふ、十二時前見附午休、四時過浜松着

昨大堰川渡し賀を一昨の通り遣す、本陣より鮓□を出す、謝銀を遣す

三日寅 晴

第四時過浜松出立、新居への渡海は領主よりの馳走船にて渡海、足輕老人乗組□る(一朱)賀銀遣す、同宿本陣

小休同本陣より乾魚七尾出す謝銀遣す、二夕川手前にて坂地同役よりの御用状届、坂地旅宿の返書也

(内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。